



平成29年4月から 先端医療開発センター がスタートしました。

外来棟
3Fです。

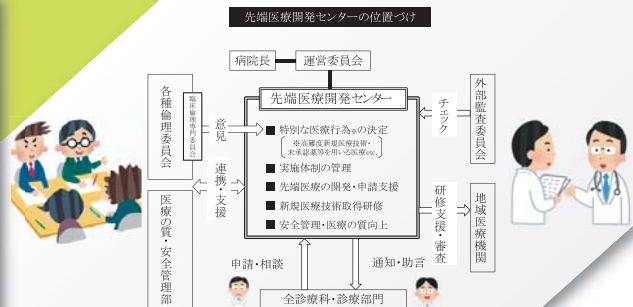


先端医療開発センターとは？

群馬大学医学部附属病院改革3つの柱のひとつとして、平成29年4月1日に設置されました。

当院においてこれまで実施したことがない、難易度が高い手術を行うときや、まだ国の承認を受けていない新しい医薬品、医療機器等を使用するとき、その可否について決定する役割を担っています。

また、これらの医療行為が実施される時には、安全に導入できるようチェックし、必要に応じて様々な支援を行っています。



- 先端医療の例 -



ロボット手術シュミレーション



ロボット手術:ダヴィンチ



重粒子線治療



重粒子加速器シンクロトロン

< 先端医療開発センターの仕事その1 ～先進医療の推進～>

新しい治療を安全に使用するお手伝いをします



群馬大学医学部附属病院は、重粒子線治療やロボット手術を始め、病気の新しい治療方法(先進医療と言います)の研究・開発を行っています。
先端医療開発センターは、これら先進医療について様々な支援を行い、病院における先進医療の推進役として活動しています。

< 先端医療開発センターの仕事その2 ～先進医療における安全の確保～>

新しい治療の開発を応援します



先進医療を行うことは大学病院の重要な使命の1つですが、その実現にあたっては、安全性が十分確保されていなければなりません。
先端医療開発センターは、先進医療の提供前はもちろん、医療が提供された後も治療経過を見守り、必要な支援を行っています。



安全な医療文化を 力を合わせたチーム医療で作ります。

先端医療開発センターのメンバー構成
外科医2名 内科医1名 事務2名

×

薬剤部・看護部・総務部・医事課・臨床試験部・各診療科...など
様々な部署が集まり、ミーティングで意見交換をしながら
チームで協力して進めています。



< 先端医療開発センターの仕事その3～ 地域医療への貢献～>

地域へ貢献します



群馬大学医学部附属病院は、地域貢献を大きなテーマの1つとして掲げています。
先端医療開発センターもまた、病院で蓄積された先進医療等の実績や医療技術等を地域に提供し、群馬県全体の医療レベルの向上に努めることを目指して日々業務を行っています。
具体的には近隣の医療機関に出向いて、医療技術に関するセミナーや講習会等を行っています。
前橋日赤病院でのCVCTトレーニング研修



ホームページでも活動を知ることができます。

先端医療開発センターホームページ

<http://imrc.med.gunma-u.ac.jp/index.html>